


8月23日 逍遙 

シリーズ開始からもうすぐ一年となるこの「逍遙館長的こころ」。その間もほぼ毎日、朝夕、城山の麓までウォーキング通勤(=そぞろ歩き)している私には、以前から、その道すがらずっと気になっている存在が居ます。

その子?は、西郷銅像の立つ国道から一本城山側に入った筋沿いにある天ぷら屋さんの住人らしく、昼間の所在はともかく、夕方になると決まって、店先に置かれた小ぎれいな薄青色のペットベッドの上か、店先のレンガ調の歩道に佇んでいる、ハチワレ顔の黒と白のぶち猫。ローアンバー色の目がとても印象的な子です。学校帰りの子ども達や通りがかりの大人がその子に気付くと、必ずと言っていい程しゃがみ込んで、何事か語りかけながら、何度も何度も頭を撫でて、その子もまんざらでもなさそうな、結構な人気者。

この子を初めて見かけた時、私は、かつて訪れたローマのコロッセオの石造の窓枠の中に凜として佇んでいた黒猫の記憶が何故か鮮明に蘇ったのでした。

やっぱり今度こそ、「この子」の事を、お店の御主人に聞いてみよう。

次回「その目には何が見えているのだろう、のこころ」